

## 令和10年度までに到達したい数値目標

取組		活動指標	目標値 <small>※( )内はR4数値</small>
<b>家読(うちどく)の実践</b> メディアコントロール等を活用し、親子で親しむ読書の時間づくりに努める	幼稚園 保育園 小学校	実施割合(%)	幼児:85%(72%) 小学生:90%(79%)
<b>図書館の利用</b> 親子での図書館利用を促す	幼稚園 保育園 小学校	利用する割合(%)	幼児:70%(60%) 小学生:65%(55%)
<b>図書館事業の親子参加</b> 図書館のおはなし会等へ参加する	幼稚園 保育園	参加する割合(%)	30%(17%)
<b>おはなし会の開催</b> 対象年齢に応じたおはなし会を実施する	幼稚園 保育園 小学校	延べ参加者数(人/年)	200人(125人)
<b>移動図書館</b> 小学校・幼稚園・保育園等を移動図書館車で巡回し、本の貸出を実施	小学校	一人当たり貸出数(冊/年)	11冊/年(9.5冊/年)
<b>不読者対策</b> 読書冊数の目標設定(読破した冊数) ※本の媒体は紙・デジタル両方	小学校 中学校	読書冊数(冊/月)	小5:8冊/月(5.8冊/月) 中2:2冊/月(1.4冊/月)
<b>外国語資料の収集</b> 民族的・言語的・文化的に多様な背景をもつ子どもが、母国語に親しめるような資料を収集する	図書館	蔵書数	70冊(53冊)
<b>園での図書貸出</b> メディアコントロールに合わせて、園児に絵本の貸し出し実施	幼稚園 保育園	一人当たり貸出数(冊/週)	年中:1冊/週 年長:2冊/週
<b>矢吹子ども読書100選表彰</b> 「矢吹子ども読書100選」対象本を読破した者へ表彰する	幼稚園 保育園 小学校 中学校	部門達成者割合(%)	幼児:100.0%(100.0%) 小学生:40.0%(32.9%) 中学生:10.0%(1.9%)

## 第三次矢吹町子ども読書活動推進計画[概要版]

# 子どもが読書に親しむ町 「矢吹」



中畑小学校「国語科:図鑑の使い方」  
(学校司書による指導)

社会全体で子どもの読書活動の推進を目指して  
矢吹町教育委員会は  
町民の皆さんと共に  
子どもの読書活動を  
推進します

本計画に沿って、  
子どもの読書活動を推進する取組を進めます。

計画期間:令和6年度から令和10年度

詩人の長田弘さんは、著書「読書からはじまる」の末尾に「本を読むことが、読書なのではありません。自分の心のなかに失いたくない言葉の蓄え場所を作り出すのが、読書です。」と記しています。矢吹町の子どもたちが、読書をとおして、「自分の心のなかに失いたくない言葉の蓄え場所」を作り出し、『人生をより深く生きる力』を身につけていけることを願っています。

矢吹町教育委員会教育長

## 計画の趣旨

この計画は、矢吹町のすべての子どもがいつでもどこでも自主的に読書に親しむことができるよう環境を整備し、読書を通して子どもの豊かな心と生きる力をはぐくむことができるよう読書活動の推進に努めることを目的とします。

## 期間と対象

- 期間／令和6(2024)年度から令和10(2028)年度の5年間
- 対象／おおむね18歳以下のすべての子どもを対象とします。

## 第三次計画の位置づけ

矢吹町教育委員会では、「矢吹町まちづくり総合計画」、「矢吹町教育大綱」、「矢吹町教育振興基本計画」、「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」、「第四次福島県子ども読書活動推進計画」を上位計画として国・県の動向を踏まえ、矢吹町の子ども読書活動推進に関する基本方針と主要施策を備える計画として「第三次矢吹町子ども読書活動推進計画」を位置づけます。

## 基本方針



### 1 子どもが読書に親しむ機会の充実のために

子どもが主体的に読書活動を行えるように、子どもの意見聴取の機会を確保し、子どもの視点をふまえ、イベント等への企画に参画することや、図書委員会等の子どもを学校図書館の運営に主体的に参画させること等が重要です。またさらに、多様な背景を持つ子どもに応じ、乳幼児期からの切れ目のない支援の促進や学校種間の移行段階に着目した取組の促進等、読書機会の場を充実させることが大切です。読書習慣の形成に向けては、発達段階や状況に応じた効果的な読書の取組を推進することが重要です。さらに、紙媒体や電子媒体等を柔軟に選択する等含め、具体的には次のような取組を推進します。

乳幼児期:読み聞かせ等により絵本や物語に興味を示すような取組

小学生期:様々なジャンルの本に親しむことで、読書の幅を広げる取組

中学生期:内容に共感や感動し、自己の将来に役立てようとする取組

高校生期:知的興味に応じ、一層幅広く多様な読書ができる取組

### 2 子どもの読書環境の整備と充実のために

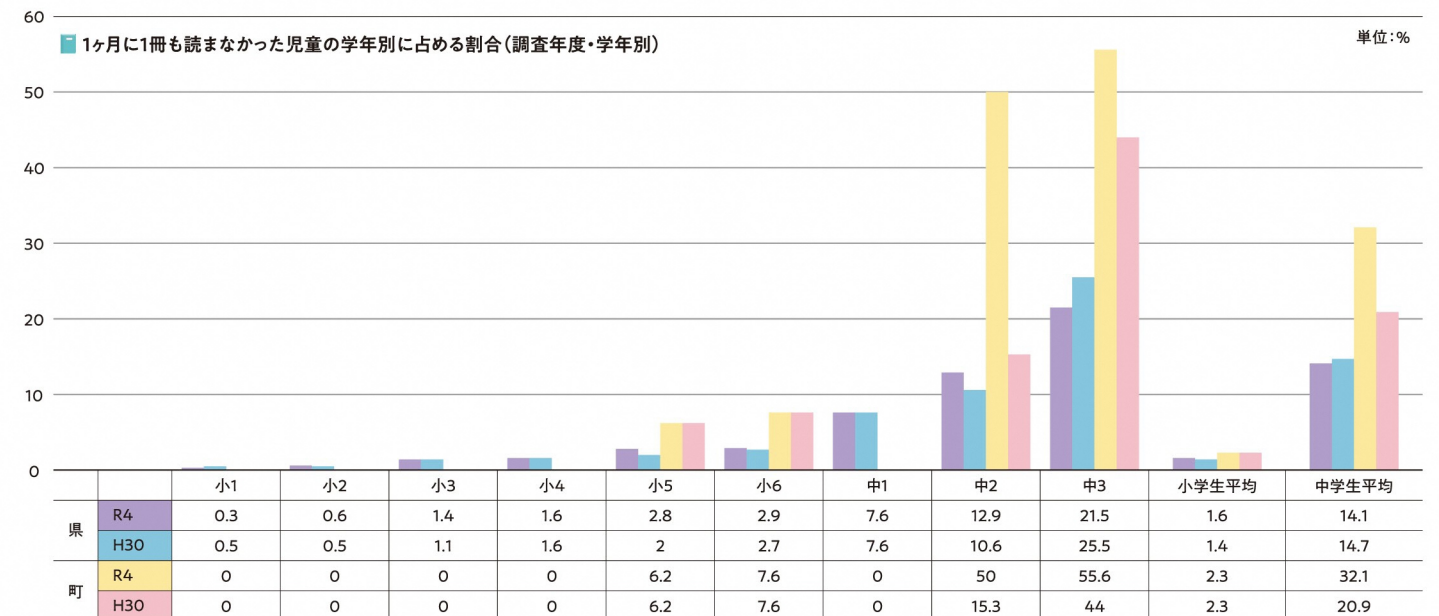
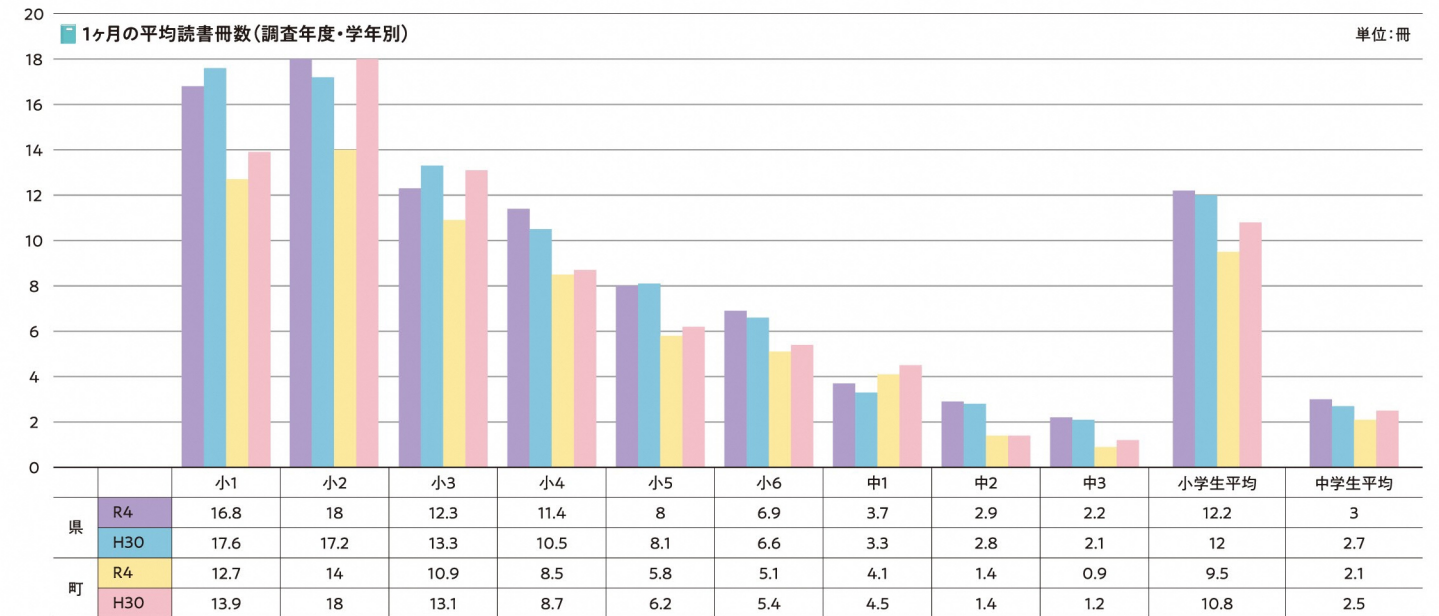
子どもの読書活動を推進するには、子どもの目的や意欲に応じ、読みたい本や知りたい情報を提供するための環境の整備と充実が大切です。さらに、障がいのある子どもや日本語指導を必要とする子どもなど、多様な子どもたちに対応した取組を行うことが必要です。このため、図書館、学校図書館等をはじめ、様々な場所において読書活動の積極的な取組を進めるとともに、多様な子どもたちが利用しやすい書籍及び電子書籍の整備・提供や、他言語対応等、読書環境の充実にも努めます。

### 3 子どもの読書活動についての理解の促進のために

子どもの読書活動の推進のために、周囲の大人たちが読書活動の意義や重要性について理解することが重要であり、町全体に広く普及させるための取組や広報を充実させていくことが必要となります。そのため、家庭・地域・学校が連携・協力を深め、子どもの読書活動の意義や重要性について広報・啓発を積極的に行い、地域社会全体で、子どもの読書活動への理解を深めることを目指します。

## 本町における子どもの読書活動の現状と課題

矢吹町の小中学生の読書の現状は、令和4年11月に県教育委員会で実施した「読書に関するアンケート」に基づいています。矢吹町では町立小中学校の各学年1学級に調査し、下記の結果となりました。



・本町の1か月の平均読書冊数は、小学生9.5冊、中学生2.1冊で、小・中ともに県と比較すると少ない。  
 ・本町の1ヶ月に1冊も読まなかった児童・生徒の学年に占める割合は、小学生高学年及び中学生が県と比較すると多い。

→第二次計画が終期を迎えるが、子どもの平均読書冊数は減少し、上学年につれ不読率は増加している。

### 就学時前の子どもたちの現状と課題

- 読み聞かせ等の楽しさを体験させ、親子で本に触れる機会を提供し、子どもを持つ親に向けて読書活動の現状を周知しながらも、図書や読書活動の情報の発信を行っていくことが重要です。
- 複合施設では、図書館と子育て世代が活動する場が集約されていることから、連携を図りながら、ブックスタートやおはなし会などを発展、充実させていくための工夫を行っています。

### 小中学生の現状と課題

- 特に中学生は、部活や家庭学習、SNSやインターネットの影響を受け、読書時間が狭められている現状があります。学校図書館に関するオリエンテーションや読書の時間の確保、教職員による図書紹介など児童生徒が読書活動に興味・感心が持てることのできる取組の工夫が求められます。また、児童生徒だけでなく家庭も含めた読書推進の取組も必要になってきます。

### 高校生の現状と課題

- 高等学校司書研修会実施「令和4年度高校生の読書アンケート」結果から、光南高等学校の生徒の不読率が61.8%と全県(43.9%)と比較して、高い不読率となっています。
- 総合学科である光南高等学校は、総合的な探究の時間や課題研究において、多様なテーマが設定されます。それら調べ学習の手掛かりとなり、生徒の知的好奇心・探究心を満たすことができるよう特色を強化した蔵書構成を行っています。
- 町として光南高等学校との連携を図り、図書館等に高校生向けの図書を配架するなど読書の楽しさを味わえるよう、あらゆる機会を通して読書の楽しさを体験することができるような呼びかけなどをする必要があります。